グループヒアリング実施概要

１．専門支援者に対するグループヒアリング

（１）対象者

虐待等の相談を受けている専門支援者　４名

（２）実施日

平成 26 年３月 10 日

（３）内容

① 地域子ども・子育て支援事業に係る今後５年間の重点課題について

(a) 地域子ども・子育て支援事業の量と品質を他区と比べての評価を聴いたところ、以下の意見が出た。

・ ショートステイ事業の利用単価で困っている保護者がいる。足立区では同様の事業における利用単価が一泊 3000 円(非課税世帯ゼロ)である。
・ 中学生までの医療受診の無料化のおかげで、学校としては怪我をした児童や病気の疑いのある児童の受診を保護者へ勧めることができている。
・ 子育ての場面では保護者の生活スキル支援の必要を感じる。子育てに係る申請の手続きをきちんとできない保護者がいる。
・ 児童虐待の問題解決の支援が単発的になっており、継続的な支援を充実させる必要がある。
・ 父子家庭への支援が少ない。

(b) 子ども･子育て支援事業における今後５年間で重要と考える課題を聴いたところ、以下の意見が出た。

・ 仕事をしてきた女性が 30 歳代で出産して家庭でモンモンしている人が増える。これからは、そういう人に対する伴走型の支えが大切になる。
・ 前例がない事案がサービスから漏れていくことを防ぐ細やかな配慮が大切。
・ サービスの申請手続きができない家庭が適切なサービスを受けられない事態が発生しており、それに応ずる人手が足りない。
・ 児童虐待に係る通告件数(内容はさまざま)が増え、初期対応のところに手が取られ、児童相談所が本来の問題解決に向けての相談対応ができない。
・ 外国籍家庭を支援し、日本語習得に支障がある子どもの学習能力が高まらない問題がある。
・ 特別支援の子どもに対する学校の評価と親の見方に大きな差が生じること。
・ 子育て機関の充実と、早期発見早期対処ができるように多様な人材を活用す

る。

・ 将来の児童相談所の整備に向けて、いまから職員を育てる方針が必要。

・ 朝食を食べさせて学校へ子どもを送り出す力がない保護者を支えること。

② 地域子ども・子育て支援事業の提供方策について

⒜ 地域子ども・子育て支援事業を必要とする保護者の手元へ届くための方策を聴いたところ、以下の意見が出た。

・ 本当に困っている人は区報を読まず、必要な情報を取得していない。例えば、Ｑ＆Ａを漫画にする、カルタで必要となるサービスを表記するなどして、サービス利用者の情報取得の障壁を低くする。

・ 文字ばかりでなく判り易い形で情報提供することにより、保護者が手続きに必要なことを理解し、適切な時期に手続きに至ることができるようにする。

・ いつも相手に伝わることを心がけ、こちらから相手に辿りつく努力が必要。

・ 当事者に安心感を抱かせる雰囲気や力を持った人を介した取組が重要である。

⒝ それを実行するのに必要な区に期待する取組を聴いたところ、以下の意見が出た。

・ サービスの申請方法や受け方などを動画で表示したり、学校と協力して低学年が描いた絵でカルタづくりで紹介するなど、視覚的にわかりやすい手法。

・ 家庭が区へ相談するとき、職員の初期対応が大切で、職員の姿勢や区の態勢で相手の信頼をつくる。

・ 生活保護家庭に対する区のワンストップ態勢をつくる。

・ 家庭支援に活用できる資源が区内に乏しいので、区外にある資源の活用も視野に入れる。

２．発達に課題のある子どもの保護者に対するグループヒアリング

（１）対象者

発達に課題のある子どもの保護者　６名

（２）実施日

平成２６年３月１１日

（３）内容

① 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の利用状況について

⒜ 現在利用しているサービスと頻度について

子ども発達センター、葛飾幼児グループ等の通所施設を組み合わせて週に数日利用し、それらを利用しない日に幼稚園等に通園している。

② 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の効用感について

⒜ 子育てサービスの利用評価を聴くと、以下の意見が出た。

- 子ども発達センターが定員いっぱいで入れなかった。
- 子ども発達センターを利用すると、子どもを預けて自分の時間を確保できて助かる。発達、言語、心理相談、内科健診など専門的な支えが充実している。
- 葛飾幼児グループは料金が低価で、内容が充実している。子どもにも親にも親身になってくれるので有り難い。そこに居ると子どもと向き合う時間が取れる。
- 葛飾幼児グループに行った最初の１年は小集団に慣れた実感。親子で通うので子どもの目線で話す、抱くなどの接し方を学ぶことができる。
- 葛飾幼児グループの先生が親身に接してくれたおかげでだんだん慣れて、友達との接し方を学び成長した。

⒝ 教育・保育サービスの利用評価を聴くと、以下の意見が出た。

- 幼稚園に通えるようになって世界が広がった。
- 療育を経て９月に途中入園した。今は平穏な状態で通園。
- 実年齢は年長だが年少になった。小学校に向けての備えに不安だが、環境を変えると子どもにストレスと考えそのまま通わせている。
- 来年も年少組と提案された。気持ちは年中組へ行かせたい。実年齢との格差に不安。
- 幼稚園に発達障害の子どもに対する理解が感じられない。

③ 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の利用希望について

⑴ 新たなサービス利用希望・現行サービスの不備やそれを補うことついて、以下の意見が出た。

・ 子どもの障害に対して、何処の施設が何をできるのか、どういう体制なのか、わかる情報が欲しい。

・ 子どもに係る情報共有について、公の施設同士の情報共有、公の施設と民の施設の情報共有がなされていない。

・ 小学校以降の支えの場が少ない。何処へ相談すれば良いか判らず不安。

・ 小学生になったから発達障害が解消している訳でなく、小学校以降の支えを厚くして欲しい。個別対応してくれる専門家をもっと多くして欲しい。

⑵ 療育施設の立地について、以下の意見が出た。

・ 療育施設が点在しているので 1 箇所にまとめて欲しい。施設巡回のバスに乗れない子どももいる。

・ 療育施設が１箇所だと住む地域によっては通いづらい親もいるので、むしろ区内に点在している方がよい。